

財団法人石川文化事業財団 平成19年度事業報告

第1章 法人の概況

1-1. 法人の沿革

- ・昭和16年9月10日、石川武美が図書館設立を目的として「財団法人文化事業報国会」を創設。
- ・昭和22年11月28日、法人名を「財団法人文化事業協会」に改称し、12月1日、駿河台2丁目に女性専用図書館として「お茶の水図書館」を開館。
- ・昭和35年3月、法人名を「財団法人お茶の水図書館」と改称。
- ・昭和40年12月、駿河台1丁目に移転。
- ・昭和53年3月、法人名を「財団法人石川文化事業財団」と改称。図書館事業部に加えて、文化事業部（昭和57年）、顕彰事業部（昭和62年）、生活文化研究所（平成3年）による4事業を展開。その後、平成13年までに図書館事業を中心とする1事業部に統合。
- ・平成14年11月、創設時の駿河台2丁目に移転。
- ・平成15年10月、専門図書館として再開館。

1-2. 寄附行為に定める目的（「寄附行為」第3条）

この法人は、一般文化の向上を図り公益に資するを以て目的とする。

1-3. 寄附行為に定める事業内容（「寄附行為」第4条）

- (1) お茶の水図書館の経営
- (2) 学術研究及び文化の向上発展並びに普及に関する施設の経営
- (3) 家庭に必要な諸般の講習並びに講演会開催
- (4) 日本文化の海外紹介及び普及
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

【註】(1)(2)に基づく、公開専門図書館としての図書館事業は、平成15年10月より再開した。また、(3)(4)に基づく文化事業として、お茶の水図書館の資料を活用した出版事業及びセミナー等の開催を実施した。

1-4. 所管官庁に関する事項

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

1 - 5 . 事業所の所在地

東京都千代田区神田駿河台二丁目 9 番地

第 2 章 事業の状況

2 - 1 . 図書館事業

お茶の水図書館は、私立の女性専用公開公共図書館から専門図書館へ転身を図り、平成 15 年 10 月にリニューアル・オープンした。当館は専門図書館部門と古典籍・古文書部門から成っている。以下、部門別に事業活動の詳細を報告する。

(1) 専門図書館部門

専門図書館部門の蔵書の中核は、近代日本の女性雑誌群である。

これまで日本の図書館界では、雑誌の資料価値を低く捉えてきた傾向があり、原資料そのものを保存してこなかったという経緯がある。近年、公立公共図書館でも雑誌を収集、保存していく方針が新たに打ち出されるなど、雑誌への評価が高まっている。

当館ではこのような動きに先行して、すでに昭和 50 年代から、とくに女性雑誌の収集、保存に努めてきた。さらに、専門図書館化してからは、明治期以降の女性雑誌のバック・ナンバーも集中的に収集している。

明治期以降の女性雑誌の発行点数は膨大であり、それらの出版状況の全容はいまだ明らかにされていない。当館は、こうした原資料を所蔵する図書館として注目されてきており、これらの女性雑誌を調査研究する利用者を、全国各地、海外から迎えている。こうした利用を受け、当部門では、近代女性雑誌の所蔵館として重要な役割を担うべく、女性雑誌の収集をさらに進めていく方針である。

また、当館は、戦前から現在に至る図書資料も多数所蔵している。約 2 万 6 千冊に及ぶこれらの図書資料群を基盤として、今後さらに、関連テーマの図書資料を収集し、蔵書を充実させていくことに努める。

資料の収集と整理業務

a. 雑誌の収集と整理

平成 19 年度の新刊雑誌の増加分は、和雑誌 191 タイトル・2,256 冊であった。このうち、購入分は 79 タイトル 953 冊、各出版社からの寄贈分は 112 タイトル・1,303 冊であった。洋雑誌は 20 タイトル・259 冊であった（洋雑誌はすべて購入分である）。

また、当部門ではバック・ナンバーの欠号補充を主な目的として、古書と雑誌の購入を進めているが、この数は 1 年間で 302 タイトル・2,813 冊にのぼった。このうち新規タイトルは 125 タイトルであった。これらの古書と雑誌の大幅な増加は、平成 19 年度期中に女性

雑誌を集中的に購入した結果である。これらの選書にあたっては、インターネットや古書店発行の目録を積極的に利用した。

以上により、平成 20 年 3 月末で、当館が所蔵する雑誌の総タイトル数は、1,090（和雑誌 998、洋雑誌 92）となった。

当館では、利用が多い女性雑誌を中心に、それらの「目次コピーファイル」（冊子体）を作成し、毎月更新している。平成 20 年 3 月末日で、その合計は 194 タイトルとなった。

この「目次コピーファイル」は、特定の記事検索だけでなく、たとえば、衣食住の変化、服装の流行や、社会情勢の移り変わりを、時代の流れに沿って調べることができ、当館を訪れる研究者に大いに活用されている。

-b. 図書の収集と整理業務

当部門では、「女性・生活・実用」をテーマとして、新刊書籍のほかに、実用書や社史等の古書の選書にも力を入れている。平成 19 年度は、「家庭電化製品」「生活道具」「日用品」などの個別テーマを設けて選書したほか、明治期から昭和戦前期にかけて刊行された「裁縫」「手芸」関連の古書 150 冊を古書店から一括購入した。平成 19 年度の入冊数は 582 冊である。その内訳は、購入分 230 冊、寄贈分 100 冊（うち、主婦の友社からの寄贈 46 冊、個人蔵書家からの料理関係図書の寄贈 38 冊、その他 16 冊）、旧蔵書から新たに受入れた図書 252 冊であった。

以上の結果、平成 20 年 3 月末日で当館が所蔵する図書の冊数は 26,165 冊となった。

閲覧業務（雑誌・図書の利用状況）

-a. 入館者および利用概況

平成 19 年度の入館者総数は 964 名（女性 885 名・男性 79 名）であった。男性利用者は、再開館後の平成 16 年度以降、毎年度、全体の約 1 割を占めている。

平成 19 年度は海外からの研究者の利用が目立った。国別に見ると、アメリカ合衆国 3 名、オーストラリア 2 名、イギリス、ウクライナ、スロベニア各 1 名である。いずれも論文執筆を目的に、女性雑誌を調査対象としている（主な論文テーマは、後述の「-e. 研究テーマ <海外研究者の論文テーマ>」を参照）。

-b. 雑誌の館内利用

雑誌バック・ナンバーの館内利用件数は年間で 2,155 件、タイトル数は 841 タイトル、8,782 冊であった。

利用の多かった雑誌バック・ナンバーの上位 20 タイトルを次ページの表にまとめた。なお、『主婦の友』（大正 6 年創刊）のバック・ナンバーは、全冊、開架式で利用に供しているため、この表には含まれないが、利用頻度では最上位である。

平成 19 年度の利用状況の特徴として次の 2 点を挙げておく（以下、雑誌名の後の括弧内は創刊年）。

(1) ここ数年、上位を占めていた『婦人画報』（明治 38 年）、『婦人之友』（明治 41 年）、『婦人公論』（大正 5 年）、『婦人倶楽部』（大正 9 年）を抑えて、『ノンノ』（昭和 46 年）が第 1 位(923 冊)となったこと、(2) 女性週刊誌の『女性自身』（昭和 33 年）、『女性セブン』（昭和 38 年）、『週刊女性』（昭和 32 年）が、論文執筆を目的とする調査対象に選ばれ、利用件数の増加につながったことである。

<平成 19 年度に利用が多かったタイトル（バック・ナンバー請求冊数ベスト 20）>

	タイトル	冊数	創刊年	備考（利用が多かった年代）
1	ノンノ	923	昭和 46（1971）	昭和 46（創刊）～現在
2	婦人画報	783	明治 38（1905）	明治 38（創刊）～昭和 40 年代、平成 10 年代
3	ジェイジェイ	353	昭和 50（1975）	昭和 50（創刊）～現在
4	女性自身	232	昭和 33（1958）	昭和 30 年代、平成 10 年代
5	婦人之友	228	明治 41（1908）	明治 41（創刊）～昭和 10 年代、平成 10 年代
6	キャンキャン	210	昭和 57（1982）	昭和 57（創刊）～現在
7	女性セブン	197	昭和 38（1963）	昭和 60 年代、平成 10 年代
8	アンアン	193	昭和 45（1970）	昭和 45（創刊）～現在
9	レイ	179	昭和 63（1988）	昭和 63（創刊）～現在
10	ヴィヴィ	174	昭和 58（1983）	平成 10 年代
11	週刊女性	160	昭和 32（1957）	昭和 60 年代、平成 10 年代
12	婦人公論	154	大正 5（1916）	大正 10 年代～昭和 40 年代、平成 10 年代
13	ヤングレディ	151	昭和 38（1963）	昭和 50 年代前半
14	婦女界	146	明治 43（1910）	明治 43（創刊）～大正末
15	婦人倶楽部	141	大正 9（1920）	大正 9（創刊）～昭和 10 年代、同 30 年代
16	女学世界	132	明治 34（1901）	明治 34（創刊）～大正末
17	美的	114	平成 13（2001）	平成 13（創刊）～現在
18	若い女性	111	昭和 30（1955）	昭和 30 年代後半～昭和 40 年代前半
"	美しいキモノ	111	昭和 28（1953）	昭和 40 年代～平成初め
20	Vogue U.S.A.	95	1935 年から所蔵	1930～1950、2000 年代

-c. 複写（コピー）利用

コピー件数は 826 件、コピー枚数は 14,560 枚(雑誌 13,997 枚、図書 563 枚)であった。コピー枚数の 96%が雑誌のコピーである。当館のコピー利用の約 8 割が調査研究を目的としている。この調査研究テーマについては、「 -e. 研究テーマ」で後述する。

-d. 図書の館外貸出

1年間の館外貸出の登録者は36名、登録者の累計は281名となった。貸出人数59名、貸出冊数は169冊であった。

女性雑誌を調査する研究者が、研究テーマに沿った図書を数冊まとめて借り出していくケースが多い。なお、「雑誌」「出版」に関する図書は、館内での調査に利用される傾向が見られる。

前述の利用状況と利用規程を以下にまとめた。

件名	総数	利用規程
入館者数	964名 (女性：885名) (男性：79名)	入館料：1回 300円(税込み)
複写(コピー)枚数	14,560枚 (モノクロ：13,299枚) (カラー：1,261枚)	料金：モノクロ 50円(税込み) カラー 120円(税込み)
図書資料貸出	登録者数：36名 貸出総数：169冊 貸出人数：59名	登録：無料 期間：5日間(継続可) 冊数：5冊まで

-e. 研究テーマ

平成19年度は、複写サービスを受けた利用者の約8割が調査研究を目的としており、このうちの半数が「論文執筆」と明記している(複写申込書による)。おもなテーマには、「雑誌広告」「衣(ファッション)」「食」「住」「健康」「女性・主婦」等が選ばれ、「文化史」「社会学」的な視点から調査・分析する手法が採られている。

当館の女性雑誌と関連図書を使った調査・研究の中から、はじめに、主な論文テーマ・大学院ゼミ発表テーマを、次に、『主婦の友』を調査対象とした主な研究テーマを、以下に挙げる。

<卒業論文>

広告論：アメリカ雑誌の化粧品広告 / 女性雑誌の中の家事広告 / 雑誌におけるジーンズ言説 / ハワイアンキルト：アロハの心が生んだ伝統文化と芸術 / ハマトラファッション / アメリカの化粧文化 / 現代人と心の病 / メタボリックシンドローム / 子ども部屋 / カツレツから見る食文化 / 日本の近代化における主婦の形成 / 日本人女性が求めた美 / 女性の恋愛観 / 終戦から高度経済成長期の教育意識の変化

<修士論文>

女性雑誌における「働くこと」の表象 / 大正時代のきもの / 戦時下の恋愛小説 / オムツをはずす時期 / 大正期における女性の看護役割 / 30代女性の「働くこと」の表象文化 / 児童虐待の社会学 / 1980年代の村上春樹

<博士論文>

大衆雑誌の表現史 / 化粧文化論 / 子ども服と子ども観 / 家事・主婦観の変遷 / 木目家具調テレビのデザイン史

< 海外研究者の論文テーマ >

日本の戦前・戦後における女性雑誌の意識にみられる変化 (卒業論文) / 20th century kimono fashions (卒業論文) / Localized international fashion magazines vs. domestic fashion magazines in Japan (卒業論文) / Cosmetics and beauty standards in Japan (修士論文) / 1935 ~ 1960 年代における女性性の視覚表象 (博士論文)

< 大学院ゼミ発表 >

有名人とマルチ商法広告および有名人広告の近代史

< 『主婦の友』を調査対象とした研究テーマ > (前掲の各論文テーマで記載済みのものは除く)

『主婦の友』に女性雑誌の流行を読む / 近代女性雑誌の出版状況 / 『主婦の友』の発行部数と専業主婦の数の変化 / 大衆女性雑誌に見る主婦文化の形成 / 明治・大正・昭和初期の洋装小物 / 満州とジャーナリズム / 和服文化 / 1920 ~ 1930 年代の美術 / 大正期から昭和初期の生活改善運動 / 昭和の家庭看護 / 戦時下の正月 / 戦時下の家計簿 / 日記論 / 1930 年前後の文化 / 20 世紀のいけばなの普及と国際化 / 戦前の女性雑誌に見られる中華料理のレシピの変遷 / 近代女性史 / 昭和のお産の状況 / 近代家族生活史 / 1941 年頃の海軍艦船の居住性および海軍の庶民とくに婦人に対する広報状況 / 聴覚障害児教育 / 大正・昭和初期に賀川豊彦が『主婦之友』に執筆した記事内容 / 呉覚農 (中国茶の研究者・茶人) が日本から発した女性論

レファレンス (相談・参考) 業務

平成 19 年度も、利用者と積極的なコミュニケーションを図り、レファレンス業務を遂行した。専門的な調査テーマを持った研究者から相談・質問を受け、所蔵資料の紹介などを通して回答したことが、雑誌のコピーサービスや図書館の館外貸出へとつながった。

レファレンス業務には、電話による問い合わせへの回答も含まれている。遠隔地の研究者が、当館のホームページから収集テーマや所蔵資料を事前に掴み、電話で詳細を問い合わせたあと、直接来館するケースが目立った。

レファレンスの内容では、『主婦の友』などの雑誌自体や出版史に関する質問が多かった。

< 雑誌・出版・広告 >

20 世紀における読者年齢別の代表的な女性雑誌 / 『主婦の友』の創刊からの発行部数 / ヘレン・ケラー初来日時 (昭和 12 年) の女性通訳者 / 「読者からの体験談」(『主婦の友』昭和 36 年頃) で募集したテーマ / 前野しおりと主婦之友遣米使節通信 / 「婦人の書いた実話」(昭和 34 年『主婦の友』) 入選作の賞品 / 徳富蘇峰による赤ちゃんの名づけ募集記事 / 戦時期の同盟通信社の女性記者 / 洋雑誌『House & Garden』(2007 年) のイギリス版とアメリカ版の掲載記事の相違

< 服飾文化・ファッション >

近代の着物の流行はどのように作られてきたか / コッポ編とは何か / 中原淳一が戦前に作った人形の作り方 / 昭和 50 年代の『主婦の友』掲載の洋裁デザイン

< 女性 >

昔の女性と今の女性のからだの変化 / 大日本婦人会の発行物『日本婦人』と同会の女性

政策

<生活・暮らし>

昭和 19 年頃の家計簿、生活簿について / 戦後、いけばなが一般女性にどう広まったか / 19 世紀イギリスの生活文化 (とくにファッション、食べ物)

<料理・食文化>

明治期の女性雑誌に見る「カツレツ」の記事 / 戦前の中華料理レシピの変遷

<その他>

『主婦之友』(大正 11 年)掲載の沖野岩三郎執筆記事 / 『主婦之友』(昭和 25 年まで)掲載の賀川豊彦の著作 / 千利休の掛け軸「茶事の文」の文面の読み方 / 主婦の友社発行の陶器全集

* 註 : 大正 6 年 3 月に創刊された『主婦之友』は、昭和 29 年新年号から誌名を『主婦の友』に変更した。上記の表記では、時期によって誌名を使い分けている。なお、両時期にまたがる場合は『主婦の友』と表記した。

寄贈論文資料の受入

平成 19 年度には、当館所蔵の近代日本女性雑誌を調査研究し、その成果をまとめた論文の寄贈が 2 件あった。

- ・ 博士論文「『主婦之友』と戦後女性イメージの創出：変容する洋装関連記事の分析を通じて」
- ・ 紀要掲載論文「雑誌記事にみる職業婦人の装い：洋装化を視点として」(『東横学園女子短期大学紀要』第 40 号)

資料保存対策

当館では、全館的に「利用のための資料保存」対策を実施している。実際の対策としては、中性紙製保存箱の作製をメインとする保存環境の整備に力点を置いている。平成 19 年度の資料保存対策が従来と比べる点を画する点は、全館的な保存政策のもとで、職員による館内での日常的な保存手当てと並行して、既成の保存箱を導入し、資料“群”を対象に、まとまった量の対策を実施したことである。今後も同様の方法で実施していく予定である。

専門図書館部門における平成 19 年度的具体策は、以下のとおりである。

雑誌書庫に保存している雑誌資料のうち、週刊誌 3 誌(『週刊女性』『女性自身』『女性セブン』合計約 5,000 冊)を対象に、750 個の保存箱を専門業者に一括注文した。館内での職員の作業では、代替策として大正期『主婦之友』のカラーコピー複製本(54 冊)を作製した。図書資料の破損の予防策として中性紙保存箱(14 個)を作製した。また、物理的な傷みが激しい資料を適宜、修理した。

さらに、書庫の環境整備対策のための調査の一環として、雑誌書庫の温湿度測定を、平成 19 年度も継続した。

(2) 古典籍・古文書部門

当館の活動のもう一つの大きな柱となる古典籍・古文書部門では、約7万点冊の成篁堂（せいきどう）文庫と、約670タイトル（約2,000点冊）の竹柏園（ちくはくえん）本の資料群を所蔵している。これらの資料群は、当館の創設時に設立者・石川武美が購入したものである。成篁堂文庫は、ジャーナリスト・言論家であった徳富蘇峰が、明治30年代から昭和戦前期にかけて収集した個人コレクションである。一方の竹柏園本は、国文学者の佐佐木信綱が所蔵していた万葉集関連の貴重書である。

整理業務

データベース作成・入力作業を継続し、4,300件の書誌データ、328件の閲覧データ、84件の寄贈図書データを入力した。

成篁堂文庫には、洋書（整理済み。昭和61年に冊子体目録を刊行）や明治期以降の和図書（未整理）も所蔵されている。総数約20,000冊に及ぶ明治期以降和図書の整理を平成18年後半から開始した。徳富蘇峰の個人コレクションの特色を出すために、蘇峰による書き入れや傍線、付属資料などを書誌事項として記録している。平成19年度は1,096冊の目録作業を行ない、累計で1,803冊となった。

閲覧業務

-a. 閲覧資料点数および閲覧者数

閲覧資料点数は延べ数193点、閲覧者数は実数67名（延べ数119名）であった。

閲覧者の内訳（実数）は、教職者は23名（大学関係では教授11名、准教授4名、専任講師2名、非常勤講師4名、助手1名のほか、高等学校教諭1名）、大学院生15名（博士課程8名、修士課程6名、科目履修生1名）、国公立・私立機関の研究者等22名（東京大学史料編纂所、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫、国立国会図書館、地方公共団体教育委員会）、一般研究者7名である。この内、海外からの研究者は8名（中国6名、韓国1名、ロシア1名）であった。

-b. 閲覧資料の点数と主な資料名および目的

はじめに、閲覧資料193点の内訳を以下に記す。

<成篁堂文庫古典籍>（101点）

『新修成篁堂文庫善本書目』（以下、『新修善本書目』と略）収載分87点

古写本（奈良から江戸）30点 / 古版本（五山版）・江戸初期版本5点 / 古活字版5点 / 近世版本（寛永版ほか）5点 / 近世木活字14点 / 自筆本2点 / 唐本（宋・元・明版）25点 / 朝鮮本1点

『新修善本書目』未収載分14点

写本5点 / 近世刊本7点 / 朝鮮本1点 / 拓本1点

<成篁堂文庫古文書>（58点）

中世 大乘院文書19点

近世 大乘院文書14点

大乘院文書以外の古文書25点

<成篁堂文庫洋書> (18点)

<竹柏園本> (16点)

次に、閲覧資料名と閲覧目的の一部を、以下に記す。

<成篁堂文庫古典籍>

『新修善本書目』 収載分

- ・『文鏡秘府論(地巻)』(1帖、平安中期写): 学術研究
- ・『本朝文粹巻七』(1軸、平安末期写)、『高山寺古文書(三種)』(1軸、鎌倉頃写): 『大日本史料』第三編(院政期)関係史料の調査・収集
- ・『梵字(断片)』(1軸、鎌倉初期写)、『妙音講式』(1軸、鎌倉初期写): 明恵上人の和歌・夢記・講式を対象とする、文学と仏教思想の関わりについての調査研究
- ・『論語集解(有欠)』(3冊、享禄4年写)、『論語發題』(1冊、享禄4年写)、『論語集解』(4冊、室町末期写): 論語古鈔本の書誌調査
- ・『禪林無盡藏』(1冊、慶長頃写)、『語録雜纂』(1冊、慶長・元和頃写)、『快川和尚法語諸法語附』(1冊、元禄頃写): 禅宗史研究
- ・『新刊五百家註音辯 唐柳先生文集』(20冊、嘉慶元年刊)、『五百家註音辯 昌黎先生文集』(10冊、南北朝頃刊)、『増廣註釋音辯唐柳先生集』(5冊、元刊)、『増廣註釋音辯唐柳先生集』(3冊、元刊): 日本中世禅林における中国文学受容(特に柳宗元)の研究
- ・『保元物語』(3冊、元和4年刊): 中山世鑑の保元物語引用箇所の確認(寛永元年整版本との比較)
- ・『鈴木豊大文稿』(1冊、江戸末期写)、『鈴木大自筆稿本』(6冊のうち1冊、明治初年写): 修士論文「歴史編纂をめぐる水戸藩学者の思想的対立」作成
- ・『物初牘語(二十五巻)並語録』(10冊、宋刊): 撰写中日仏教交流史の論文作成
- ・『新編事文類聚翰墨全書』(30冊、元泰定元年刊)、『新編事文類聚翰墨全書(別版)』(1冊、元刊): 翰墨全書版本の研究

『新修善本書目』 未収載分

- ・『東大寺蘭奢待伝来書』(1冊、江戸中期写)、『香之記』(1冊、寛文頃写): 全国の香道文献一覧の作成
- ・『藏笥百首』(1冊、寛文頃刊): 近世文学の図像的研究
- ・『大覚国師文集』(2冊、高麗刊)、『妙法蓮華經巻第一』(1帖、高麗写): 11~12世紀の東アジアにおける仏教交流の研究

<成篁堂文庫古文書>

中世 大乘院文書

- ・『御寺務部』(5軸、元応2年写)、『御寺務部別巻』(1軸、鎌倉末期写)等: 南都寺院関係史の研究(4名での共同閲覧)
 - ・『類聚世要抄』(20軸、鎌倉末期写): 中世興福寺の法会についての調査(博士論文作成)
 - ・『鬪茶文書』(『出雲庄浮免注文』の紙背文書)(1通): 鬪茶に関する論文作成
- 近世 大乘院文書

- ・『大安寺八幡宮縁起』(1冊)：中世～近世の大安寺の寺院史研究
 - ・『御旧記御旧伝等目録』(1冊、江戸末期写)：中世興福寺史研究
大乘院文書以外の古文書
 - ・『小早川隆景書状其他』(1軸、室町末期写)『福井文書』(1軸、室町末期写)『毛利元黒印掟書』(1通、室町末期写)等：山口県史編纂(5名の共同閲覧)
 - ・『豊臣秀次知行目録』(片桐文書)(1通、天正18年写)『織田信長黒印状』(1幅、元亀元年写)『徳川家康書状』(1幅、江戸初期写)：愛知県史編纂(3名の共同閲覧)
- <成篁堂文庫洋書>(18点)
- ・『The church and international relations』(3冊、明治40年刊)等 洋書合計18点(20冊)：徳富蘇峰研究
- <竹柏園本>(16点)
- ・『太平記(巻第一至十五)』(15冊、天文頃写)：太平記の諸本研究
 - ・『萬葉摘草』(1冊、文化13年写)：夏目鸞麿の万葉集研究に関する調査

成篁堂文庫抄物調査

柳田征司先生(当財団理事、奈良大学文学部教授、財団法人阪本龍門文庫理事)に、成篁堂文庫が所蔵する抄物の調査を依頼した。日本語音韻の歴史がご専門の柳田先生は、主に禅僧や学者などが作った「抄物」を対象に、長年にわたり全国規模で調査を続けられてきた、斯界の第一人者である。

平成19年度の調査は、『新修善本書目』に記載された抄物を中心に行なわれ、調査対象は、江戸時代初期の古版本、古活字版120点(前年度からの合計点数：783点)に及んだ。

なお、柳田先生には、平成19年度後半から、成篁堂文庫の古典籍総合目録の編纂を目的とする悉皆調査を依頼した。この調査の補助には古典籍・古文書部門スタッフを充てている。平成19年度後半期の調査対象は、『新修善本書目』未掲載の写本・版本1,734点であった。

写真掲載・翻刻掲載・放映への協力

古典籍・古文書の写真掲載・翻刻掲載・放映に関する25件の申請を受け、それぞれの出版・展示事業に協力した。その内訳は、写真掲載18件、翻刻掲載3件、放映3件、その他1件であった。使用目的は、出版物、論文、学会誌、地方自治体史への掲載や、公民館主催のパネル展示、テレビ歴史番組の制作などであった。また平成19年度は、国立歴史民俗博物館の常設展示品として当館資料(『蚕養育手鑑』)の複製製作にも協力した。

-a. 写真掲載

『信長・義昭 五か条の条書』4件、『西本願寺本萬葉集』5件のほか、『浅井長政書状(片桐文書)』、『旗本中坊氏屋敷絵図』、『闘茶文書』(大乘院文書『出雲庄浮免注文』の紙背文書)、『燕槎続韻』など、合計18件(小学館、吉川弘文館、山川出版社、淡交社、池田市歴史民俗資料館ほか)

-b. 翻刻掲載(一部引用翻刻)

『真壁政基代薄景教軍忠状』、『修史局編輯・凡例・例則・書目』(鈴木大自筆稿本)、『萬葉書』の合計3件(横須賀市役所、慶應義塾大学大学院生、個人研究者)

-c. 放映

『西本願寺本萬葉集』2件(NHK関連)、『信長・義昭 五か条の条書』1件(民放) 合計3件

寄贈資料の受入

平成19年度中に、当館古典籍・古文書部門が受領した寄贈資料は71点である。このうち、当館が所蔵する古典籍・古文書を調査研究し、その成果をまとめた論文等の寄贈は、以下の12点であった。

- ・『文鏡秘府論彙校彙考(附)文筆眼心抄 1~4巻』(中国出版物)(『文鏡秘府論(地巻)』を写真掲載)
- ・『大日本古記録 民経記10』(『藤波文書 第三巻』を翻刻掲載)
- ・「闘茶の方法とその発展」(『野村美術館研究紀要 第17号』)(大乘院文書『出雲庄浮免注文』の紙背文書「闘茶文書」を写真掲載)
- ・『類聚世要抄』に見える鎌倉期興福寺再建：運慶・陳和卿の新史料」(『佛教藝術 291号』)(『類聚世要抄』を翻刻掲載)
- ・『佛乘禅師東帰集』の基礎的研究：伝自筆本と版本の比較を手がかりに」(『日本漢文学研究 第2号：二松学舎大学 21世紀COEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」』)(『佛乘禅師東帰集』を翻刻掲載)
- ・「湖西を築いた人・夏目鸕鷹の万葉集研究：『禱釜嚴釜考』」(『語り継ぐ日本の文化』)(『禱釜嚴釜考』を翻刻掲載)
- ・「夏目鸕鷹著『萬葉摘草』について」(『上代文学研究論集』)(『萬葉摘草』を翻刻掲載)
- ・『明恵上人遺訓』の成立」(『古代中世文学論考 第二十集』)(『梅尾明恵上人傳記』を翻刻掲載)
- ・『顧眄』の異表記について：幽霊語としての『顧眄』」(『日本語と辞書 第12輯』)(『本朝文粹 巻七』の資料紹介)
- ・『鼓銅函録』の諸本と流布年代」(『住友史料館報 第38号』)(『鼓銅函録』の資料紹介)
- ・『徳川後期の学問と政治：昌平坂学問所儒者と幕末外交変容』(古賀精里・古賀侗庵に関する資料紹介)
- ・『高野山伝存史料から見た弘仁・天長両皇帝の時代：平成17年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書』(『平城天皇灌頂文』等の資料紹介)

資料保存対策

当館では全館的に「利用のための資料保存」対策を講じているが、古典籍・古文書部門における平成19年度の具体策は以下のとおりである。

成篁堂文庫洋書2,500点を対象とする中性紙製保存箱の作製を専門業者に発注した。また、貴重書庫内の適正な温湿度管理を目指し、平成19年度も引き続き、1日2回のデータ採取および見回り点検を励行した。

(3) 職員研修及び教育

研究会、講演会、見学会への参加

各担当業務の関連テーマに関する知見と技術を習得するため、研究会、講演会に参加し、関連機関・催事を見学した。

<平成 19 年>

- ・5月：新装オープンした千代田区立千代田図書館を見学
- ・10月：情報保存研究会・日本図書館協会共催シンポジウム「プリザベーション・マネジメント」に出席

<平成 20 年>

- ・1月：専門図書館協議会（以下、専図協）関東地区協議会主催のイブニングセミナー「ライブラリアンのための個人情報保護法の解説」に出席
- ・同月：専図協関東地区協議会主催の新春講演会「図書館の力」（国立国会図書館長・長尾真）に出席
- ・同月：専門図書館協議会賀詞交換会に出席

専門分野教育

- ・東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻（文献学）博士課程
- ・玉川大学通信教育部（博物館学課程）

(4) その他の活動

<日本図書館協会主催・全国図書館大会第 93 回第 5 分科会での発表>

平成 19 年度第 93 回全国図書館大会専門図書館分科会（テーマ「専門図書館の再生」）において、「女性専用図書館から、女性雑誌の専門図書館へ」と題する当館の事例を発表した。

この分科会には、全国から約 70 名の図書館員が参加し、講演後、活発な質疑応答が行なわれた（10 月、国立オリンピック記念青少年総合センター [東京]）。

2 - 2 . 文化事業

(1) 第 4 回成篁堂文庫セミナーの開催

柳田征司先生を講師にお招きし、成篁堂文庫が所蔵する抄物の調査研究の成果を踏まえて、「本邦における医書の出版」をテーマとすることをご講演をお願いした（平成 20 年 2 月 23 日、当館ビル 9 階）。定員 20 名のところ、参加者は 25 名であった。

(2) 「お茶の水図書館の 60 年」の編纂・刊行

当館は、平成 19 年 12 月に創立 60 周年を迎えた。これを記念して、当館の 60 年史「お茶の水図書館の 60 年」（カラー 121 頁、A4 判、総クロス装ハードカバー）を刊行した。

昭和 22 年の開館以降の活動記録の集大成として、写真・図版を多く収載し、ビジュアル

な年史の編纂を目指した。公益法人が運営する、歴史のある私立図書館は数が少なく、近代日本の図書館史の観点からも、意義のある一冊となった。

(3) 美術資料（原画・挿絵・原稿・写真等）の貸出協力

当館では、雑誌『主婦之友』に掲載された表紙絵原画・挿絵原画等の美術資料を数多く所蔵している。平成19年度における美術資料の貸出等の事業は、以下のとおりである。

< 落谷虹児の絹本作品の保存対策（調査および手当て） >

平成19年度は、落谷虹児の絹本作品2点（「ベトエイユの風景」「巴里の少女」）の借用申請が重なった。このため事前に、作品の状態調査を保存修復家に依頼した。調査結果を検討し、作品そのものは修復せず、額装への保存手当てを行なうことを決定。適切な材料を用いて、作品にとっての最小の理想的環境を整え、貸出に備えた（平成19年3、4月）

< 弥生美術館へ落谷虹児作品を貸出 >

落谷虹児作の絹本2点（「ベトエイユの風景」「巴里の少女」）と挿絵原画5点（「氷柱の金魚」）を、同美術館「落谷虹児展」（4月5日～7月1日開催）に貸出した。展示中の照度・光量による劣化を防ぐため、絹本2点は期間中の前後半に分け、入れ替えて展示することを条件とした。

< 弥生美術館から志村立美作品が返却 >

同美術館「生誕百年 挿絵画家 志村立美展」（1月3日～4月1日開催）に貸出していた志村立美の挿絵原画（雑誌『主婦之友』掲載）4タイトル16点が返却された（4月）

< 松山市「坂の上の雲」ミュージアムによる「坂の上の雲」挿絵ポスター作成への協力 >

同ミュージアムの申請を受け、下高原健二画「坂の上の雲」第79回連載分の挿絵画像を使用した、同ミュージアムの宣伝ポスター作製に協力した（4月）。

< 新潟県立万代島美術館へ落谷虹児作品を貸出 >

同美術館「魅惑の線・輝く色彩 落谷虹児展」（7月28日～9月24日開催）に絹本2点（「ベトエイユの風景」「巴里の少女」）と挿絵原画3点（「氷柱の金魚」）を貸出した。

< 「小袖 江戸のオートクチュール」への岡田三郎助作品「婦人像」の貸出準備 >

平成20年4月～平成21年5月に、名古屋市博物館、サントリー美術館、大阪市立美術館で行なわれる巡回展「小袖：江戸のオートクチュール：初公開 松坂屋京都染織参考館の名品」（主催は前記3館のほか、松坂屋京都染織参考館・日本経済新聞社）に、当館が所蔵する岡田三郎助の油彩作品「婦人像」を貸出すことになり、平成19年6月以降、その準備を進めた。

< 「しろばんば」挿絵展への展示協力 >

伊豆市湯ヶ島在住の写真家から、井上靖著・小磯良平挿絵「しろばんば」（雑誌『主婦の友』連載小説、）の展示パネルへの使用許可申請を受け、これに協力した（4月）。同展は、伊豆市主催の井上靖生誕百年記念祭（平成19年4月～平成20年1月）に合わせて企画されたものである。

< 高島華宵作品の画像再使用 >

株式会社NHKエンタープライズから、「新日曜美術館」（NHK教育番組2003年12月放映）の再放送に際し、同番組で紹介した高島華宵作品画像を再使用したい旨の申請を受け、

これを許可した（平成 20 年 2 月）

< 石川武美関連資料の貸出 >

大分県宇佐市民図書館の依頼を受け、同館が主催する「生誕 120 年記念 石川武美と『主婦之友』展」(会期：平成 19 年 12 月～平成 20 年 3 月)に、石川武美関連の写真等を貸出した。

(4) 山本有三「心に太陽を持って」著作権関連

藤原正彦著「心に太陽を 唇に歌を」(世界文化社、平成 19 年 4 月刊)に「心に太陽を持って」を使用する件について、世界文化社から申請を受け、これを許可した（平成 19 年 6 月）。平成 19 年度は、この件を含む 5 件の申請を許可した。

また、引継ぎ準備が整ったため、「心に太陽を持って」の著作権を、平成 19 年度をもって、山本有三先生のご遺族に返還する手続きを終了した。

2 - 3 . 事務局

(1) 広報活動

ホームページでの広報

当財団は平成 15 年 10 月の図書館リニューアル・オープンに合わせてホームページを開設した。平成 19 年度もこのホームページの情報を更新し、広報活動を積極的に行なった。

財団の設立趣旨、事業概要の説明のほかに、図書館の広報として、専門図書館部門では、利用案内、和洋雑誌所蔵リスト、テーマ別蔵書、資料保存関連リンク集を紹介した。また、古典籍・古文書部門では、利用案内、成篁堂文庫・竹柏園本の概要、冊子体所蔵目録などを紹介した。

当館見学会の実施

平成 19 年度は、以下の機関・グループから申請を受けて、当館の見学会を実施した。見学会の目的は多岐にわたっており、専門図書館化を果たした当館の活動への関心の高まりを示していると言えよう。

< 平成 19 年 >

- ・ 5 月：早稲田大学法学部・弓削尚子准教授と同ゼミ学生 4 名。

「歴史とジェンダー」をテーマとするゼミの授業活動の一環。

- ・ 7 月：東京大学東洋文化研究所図書室職員 3 名。

改修工事の参考にするため、設備や什器の見学及び資料保存対策の調査。

- ・ 11 月：実践女子大学文学部図書館学・塚原博准教授と同課程の履修学生 12 名。

専門図書館としての当館の活動を見学。

< 平成 20 年 >

- ・ 2 月：宇佐市市長・時枝正昭氏と秘書 1 名。

大分県宇佐市民図書館での「生誕 120 年記念 石川武美と『主婦之友』展」(平成

19年12月～平成20年3月)の開催を期に当館を表敬訪問。

- ・同月：自由学園資料室2名。
雑誌の保存対策のため、保存箱等の資料保存対策を調査、見学。
- ・3月：愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センター事務長1名。
私立の専門図書館のマネジメントに関する調査。
- ・同月：大分県宇佐市民図書館の司書職職員1名。
前述の「石川武美展」終了後、所蔵資料調査。
- ・同月：国立女性教育会館情報課長1名。
同館の活動に活かす専門図書館の情報収集。

図書館協力

当館から、専門図書館協議会(以下、専図協)広報委員会の正式委員として職員2名が就任し、また1名が同委員会の活動を補佐した。平成19年度の活動は以下のとおりである。

- ・「メールマガジン・SENTOKYO」の新刊案内を担当、「図書館・出版」に関する新刊情報を専図協のインターネット会員に提供(毎月2回)。
- ・専図協総会の会場案内、全国研究集会分科会の司会。
- ・専図協特別セミナーの運営に協力。
- ・第93回全国図書館大会 専門図書館分科会(「専門図書館の再生」)の運営。
- ・米国専門図書館協議会・専図協ジョイント・ミーティングの運営。

自館の内部活動だけでなく、専門図書館界全体を視野に入れた外部活動に参加することには大きな意義があり、平成20年度も継続して専図協の運営に協力する予定である。

(2) 管財部門の業務

当財団では、歴史的にも文化的にも貴重な資料を数多く所蔵しているため、建物・設備等の維持管理には細心の注意を払っている。平成19年度は、移転時に修繕できなかった箇所の整備を行なったほか、年間スケジュールに沿って、点検、メンテナンスを実施した。

具体的には、エレベータ部品交換、貴重書庫の空調機ファンベルト交換、8・9階の窓の補修、9階トイレの改修工事などである。

また、所有ビルの劣化状況と修繕状況の調査結果を踏まえ、平成18～19年度にかけて、所有ビル屋上の整備とエレベータの改修工事を行なった。

(3) 資産運用委員会の活動

当財団の基本財産並びに運用財産の適正な運用を目的として、資産運用委員会の活動を継続した。平成19年度は、混迷する国内外の政治・経済状況を見据えながら、動向を見守る1年となった。今後数年のあいだに、良い時期を選び、基本的なポートフォリオを構築し、さらに安定した運用基盤を固めていく方針である。

(4) 文部科学省による実地検査の実施とその結果

所管官庁である文部科学省生涯学習政策局社会教育課による実地検査が、平成19年9月

4日に実施された。その後、財団の運営全般に関して「優良」との総合評価を受けた。

(5) 公益法人制度改革に伴う申請の準備

平成20年度に公益法人制度改革法が施行されることにより、公益法人として新たに申請することが求められている。このため、平成19年度は、新法の考え方や申請手続きへの理解を深めることを目的として、関連テーマの説明会やセミナーに積極的に参加した。

2-4. 役員会等に関する事項

(1) 理事会に関する事項

開催月日	回数	議 事 事 項	会議の結果
H19.6.16	第148回	(第1号議案)平成18年度事業報告承認の件	可 決
		(第2号議案)新公益法人会計基準の導入に伴う指定正味財産確定の件	可 決
		(第3号議案)平成18年度財務諸表及び収支計算書承認の件	可 決
		(第4号議案)理事・監事・評議員改選の件	可 決
H20.3.22	第149回	(第1号議案)平成19年度補正予算承認の件	可 決
		(第2号議案)平成19年度事業計画承認の件	可 決
		(第3号議案)平成19年度収支予算承認の件	可 決

(2) 評議員会に関する事項

開催月日	回数	議 事 事 項	会議の結果
H19.6.16	第125回	(第1号議案)平成18年度事業報告承認の件	可 決
		(第2号議案)新公益法人会計基準の導入に伴う指定正味財産確定の件	可 決
		(第3号議案)平成18年度財務諸表及び収支計算書承認の件	可 決
		(第4号議案)理事・監事・評議員改選の件	可 決
H20.3.22	第126回	(第1号議案)平成19年度補正予算承認の件	可 決
		(第2号議案)平成19年度事業計画承認の件	可 決
		(第3号議案)平成19年度収支予算承認の件	可 決